



小学校でリカレント教育！生徒は地域住民?!

文部科学省は、次期教育振興基本計画について（答申）〈令和5年3月〉の中で、5つの基本的な方針を掲げています。その一つ「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」では、「学校教育における多様化とともに、社会人の学び直し（リカレント教育）をはじめとする生涯学習の必要性が高まっている。……“人生を豊かにする学び”や“他者との学び合い”を身近なものとするのが重要である。また、高齢者を年齢によって画一的に捉えることなく、第二の人生を生きる個人の意欲や能力を生かすエイジフリーな社会に対応した学習機会の確保も重要である。」と述べています。

※リカレント教育とは …学校教育を修了した後、社会人が再び学校等で受ける教育のこと

本号では、地域住民との協働的な学び〈一緒に学ぶ〉を模索している宇佐川小学校を紹介します。

7/5(水) 校内研修<5年算数>の一環として実施



本校は、全校児童2名の極小規模校です。グループでの話し合いが難しいことが課題です。協働的な学びを目指し、子供と大人が一緒になって寺子屋的にワイワイガヤガヤ学習できないか模索しています。〈校長〉



学校運営協議会の今井会長さんに相談しました。すると、宇佐サロンから8名の地域住民の方が、授業に参加してくださいました。〈授業者〉

考えたことを、たくさんの方の前で発表できて嬉しかった。〈小学生〉

子供たちの成長が、目の前で見てよかった。〈地域住民〉

今どきは、式を作って計算して終わりではなく、解き方を説明するところまでやるんじゃないか。〈地域住民〉

大人は、いろいろな見方・考え方をするんだな。面白いな。〈小学生〉

人文字の距離と人数の関係を見つける問題でした。直線、L字型、H字型など体験的・視覚的に理解でき、とてもありがたかったです。〈授業者〉

こんなつもりじゃなかったけど…でも、頭の体操になった。〈地域住民〉



同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ、刺激し合うことができます。様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることで、生きている実感を持つことができます。地域連携教育の魅力がここにあります。



授業後には、教師と地域住民の振り返り(ユニット型研究協議)が行われ、「解き方が解る、解ったことを自分の言葉で説明する」ということについて話し合われたようです。

